

読書活動推進NEWS

こちらのQRコードから、閲覧・ダウンロードができます→



読書活動支援者育成事業 南会津地区研修会 ①

8月22日(木)、南会津町南郷総合センターにおいて、子供たちの読書活動推進に向けて、読書活動支援者の育成や資質向上を図るため、読書活動支援者育成事業南会津地区研修会を開催しました。

当日は、図書ボランティアや小中学校教員、読書サポートティーチャーなど読書活動支援に関わる方だけではなく、読書好きな方、中学生など一般の方も参加され、東日本大震災における避難生活への理解を深めたり、「絵本よみきかせセラピー®」という新たな読み聞かせの形を体験したりしました。



講演「震災語り部」による講演

東日本大震災原子力災害伝承館 語り部 遠藤 昭三 氏

～参加者の感想から～

実際に被災された方の生の声を聞いて、同じ福島県の中でどんなことが起こっていたのかわかった。ダンボールアートのような工夫で、避難所の方もすごくほっとしたのではないのかなと思った。

私が住む福島でおきたことだけれど、幼かったため知らなかった。震災や避難のことを知ることができてよかった。

TV等では報じられていない実体験からくる本物の言葉。穏やかな語り口調の中にも芯の強さを感じられました。想像できない出来事に出会っても、私自身、前を向いて乗り越えていける強さをもっていたいですし、そういう子供達を育てていきたいと思いました。



語りの他に、ひまわり畑づくりなど、大変労力も使われている活動に驚きました。ダンボールの作品も想像以上のすばらしさで感動しました！



<震災語り部の遠藤昭三さん>

震災語り部の遠藤さんは、東北地方太平洋沖地震を富岡町で被災され、その後の原子力災害により町からの避難を余儀なくされました。ご自身が避難生活を送る中、避難者が少しでも前向きになればと「ダンボールアート」を始められたそうです。

講演会で、ご自身の活動を「じっとしてられない。前を向かないといけない。語り部として思いを伝え、共有することで自分自身も元気をもらっています。」とお話されていました。